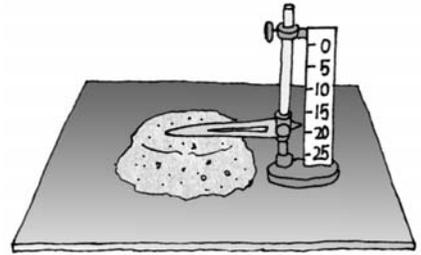


● 読者のみなさまへ ●

わが国の社会資本整備にコンクリートが用いられ始めたのは明治時代に遡りますが、本格的にコンクリート構造物が造られるようになったのは戦後の復興期からで、高度成長期には大量の構造物が建造されました。もとより、コンクリート構造物は耐久性が高く、構造耐力が高く、火災にも強いことから安全と安心を確保するために多用されました。しかし皮肉にも、大きな地震の度に構造設計や耐震設計の見直しを余儀なくされ、塩害やアルカリ骨材反応によるコンクリートの劣化から耐久性までも見直しを迫られ、安易に用いられていたコンクリート構造物が、しっかりと設計思想の下で構築する必要があることを技術者自身が思い知らされました。

施工技術についても同様で、時代とともに技術が進歩しているにも拘らず、むしろ近年になって、コンクリート構造物に不具合が頻発する事態です。丁寧に造られていた時代と



異なり、急速な施工が求められる時代に造られた構造物が多くの不具合を生じていることを鑑みれば、施工計画の重要性と臨機応変の施工管理が大切であることは明らかなです。

一方、機械化から自動化へと建設技術は成熟していると言えますが、このことから技術者の能力までもが成熟していると錯覚してはなりません。技術は継承されてはじめて高度化への道をたどります。マニュアル化された技術では確実な技術の継承はできません。高度な技術は基本的な技術に支えられて成り立っています。

そこで、コンクリートの施工技術の基本に立ち返り、コンクリート施工のコツを記録することにしました。コンクリート施工の原点に戻って、基本的かつ要点となる考え方をまとめました。これからの建設産業でコンクリートを扱っていかれる技術者の方々の参考になれば幸いです。

著 者

